

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立二宮小学校

校区には順徳天皇の第二皇女を祀る二宮神社があり、校名の由来にもなっています。子どもたち183名は「ゆたかにかしこくたくましく」の教育目標の下、日々明るく楽しく学んでいます。

昨年10月20日には、創立110周年を記念し、植樹祭を行いました。遊具広場の真ん中に植えられたサラサモクレンは、全校児童の投票により、「夢の木」と命名されました。

温かい日差しを浴び、子どもたちが「夢の木」に集い、楽しく遊んでいる光景が目に見えます。本校の伝統ある教育活動の一つに、青少年赤十字の活動があります。昭和26年の赤字加盟以来、子どもたちの「気づき、考え、実行する」力の育成に取り組んで



創立110周年記念植樹祭

います。

1学期には、修学旅行で6年生が企画した「佐渡はすごいっっちゃ大作戦・物産展」を万代シティー



佐渡はすごいっっちゃ大作戦

のど真ん中で行いました。佐渡おけさや鬼太鼓で注目を集め、手作りの佐渡PRパンフレット200枚をすべて配りました。汗を流して運んだ「トキ証米」を始めとした佐渡の特産品も完売することができ、子どもたちの笑顔が広場に溢れました。この時の収益金は東日本大震災の義援金として日本赤十字社に送りました。

また、2学期には、保護者ボランティアの皆さんと全校児童による学区の清掃活動「二宮っ子クリーン作戦」を行いました。毎年この活動を通して、奉仕の精神が育っています。

佐渡を誇りに思い、愛する佐渡の美しい姿を保つために全力で取り組む心をこれからも大切に育んでいきたいと思えます。

◆教育委員会学校教育課

(両津支所内) ☎23-4898



佐渡をジオパークに

ジオパーク、推進日記

25

南蛮エビとジオの深い関係

お刺身や握り寿司で食べている南蛮エビ。甘みがありプリプリとした食感が美味しいですよ。佐渡では赤泊、姫津、両津の3地区でえびかご漁が操業されています。また、富山湾でも水揚げされています。

南蛮エビは、水深2000から6000mの砂や泥の海底を好みます。この環境は、佐渡周辺や富山湾の海底に広がっている海底地形そのものです。たとえば小佐渡山地の地形を見てください。国中平野の北西側はなだらかに傾斜している一方、南西側は急な斜面が続きます。岩首集落や片野尾集落の棚田は、この急な土地を利用して作られ、そして、この地形はそのまま海の中へと続いています。つまり、佐渡周辺の海底は陸に近い所が急に深くなっており、南蛮エビが好む環境が広がっているのです。特に鷲崎から両津、水津から赤泊にかけての海底地形はとても急で、水深が一気に深くなっています。これは、佐渡が地震で隆起し



てできた「大地のしわ」であるがゆえのことです。

地震が作った佐渡の大地に、人が田んぼを作りました。山から流れる水はこの田んぼを潤し、川を流れてやがて海に辿り着きます。佐渡の南蛮エビが美味しいのは、佐渡の山から海へと豊富な栄養が流れ込んでいる日本海に住んでいるからではないでしょうか。

佐渡や新潟では、「南蛮エビ」と呼ばれています。学術的には、「ホッコクアカエビ」といいます。全国的には「甘エビ」と呼ばれているのが一般的ですが、築地では「トンガラシ」、糸魚川では「ヒスイエビ」、能生では「コンヨウエビ」など地域によって呼び名が異なるのは面白いですね。また、佐渡でも「はねつ娘」という名で海洋深層水を用いて活きた南蛮エビを出荷して全国の人たちにPRしています。

今回は、南蛮エビからジオパークを考えてみました。このように目の前の対象を違った視点で見ると、次々と関連性が見つかり、繋がっていくのがジオパークの面白さです。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)

☎23-2101